

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員一 人あたりの 在籍学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
健康科学 部リハビリ テーション学 科作業療法 学専攻	1人	4人	3人	2人	10人	6人	9人	0人	46人	8人	
計	1人	4人	3人	2人	10人	6人	9人	0人	46人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	建学の精神	15	古澤敏昭・和田藍子・近藤貞子	専任および兼任
		心理学	15	河原剛	兼任
		ヒロシマのこころ	15	宮崎洋幸 他	専任および兼任
		生命科学概論	15	猪村剛史	専任
		哲学	15	関村誠	兼任
		法と人権	15	大田晋	兼任
		教育概論	15	森下真実・瀧口美絵	兼任
		比較文化論	15	浮田三郎	兼任
		社会と平和	15	丸岡清枝	兼任
		医療経済政策論	15	鈴木誠志	兼任
		ボランティア論	15	吉清有三	兼任
		アカデミックリテラシー	15	川畑なみ他 PT・OT 教員	専任および兼任
		物理学	15	松本雅樹	兼任
		生物学	15	松尾茂	兼任
		統計学	15	村澤昌崇	兼任
		コミュニケーション技法Ⅰ	8	高島千敬他 PT・OT 全教員	専任
		コミュニケーション技法Ⅱ	8	高島千敬他	専任
		LearnerEnglishⅠ	15	相原健人	兼任
		CommunicativeEnglishⅠ	15	柳原里枝子	兼任
		AcademicEnglishⅠ	15	相原健人	兼任
LearnerEnglishⅡ	15	相原健人	兼任		
CommunicativeEnglishⅡ	15	柳原里枝子	兼任		
AcademicEnglishⅡ	15	相原健人	兼任		

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	中国語入門	15	范叔如	兼任
		韓国語入門	15	李賛任	兼任
		英会話	15	MichaelDavenport	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能及 び心身の発達	身体機能触診学	15	岩本優士	専任
		人間発達学	15	平尾文	専任
		生理学Ⅰ	15	牧田亨介	専任
		生理学Ⅱ	15	牧田亨介	専任
		生理学実習	23	牧田亨介他	専任
		解剖学	30	牧田亨介	専任
		解剖学演習	30	牧田亨介	専任
		栄養学・生化学	15	三好真理	兼任
		運動学	15	谷岡龍一	専任
		運動学実習	15	岩本優士	専任
		疾病と障害の成り立 ち及び回復過程の促 進	リハビリテーション医学・医療	15	甲田宗嗣 他
	小児期発症疾患の障害学		15	馬屋原康高	専任
	病理学		15	達家雅明	兼任
	救急処置法		8	内海秀・菊谷知也・ 太田浩平・石井潤貴	兼任
	神経内科学総論Ⅰ		15	菊本修	兼任
	神経内科学総論Ⅱ		15	菊本修	兼任
	一般臨床医学Ⅰ		15	土井謙司	兼任
	一般臨床医学Ⅱ		15	土井謙司	兼任
	整形外科総論Ⅰ		15	松本治之	兼任
	整形外科総論Ⅱ		15	松本治之	兼任
	精神医学総論Ⅰ		15	秋田博孝	兼任
	精神医学総論Ⅱ		15	秋田博孝	兼任
	臨床心理学	15	河原剛	兼任	
	老年期障害学	15	平岩和美・藤井紀文	専任	
	保健医療福祉とリハ ビリテーションの理 念	チーム医療論	8	馬屋原康高・嶋本文 雄・高島千敬・風間 栄子・藤井隆行・言 語聴覚専攻科教員	専任および 兼任
		ヘルスプロモーション論	8	藤村昌彦	専任
		公衆衛生学	15	牧田亨介	専任
		社会福祉と地域包括ケア論	15	平岩和美	専任
		医療福祉と経済	15	田中雅康・古澤泰治	兼任
		スポーツ理論と実技	15	山口浩二	兼任
		人間の行動と健康	8	高井節夫	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
専門分野	基礎作業療法学	作業療法学概論	15	宮崎洋幸・川畑な み・平尾文	専任
		基礎作業学	8	渡邊哲也	専任
		基礎作業学実習 I	23	平尾文	専任
		基礎作業療法演習	15	渡邊哲也	専任
		基礎作業学実習 II	23	渡邊哲也	専任
		生活支援計画論	15	高島千敬	専任
		作業療法学研究法	8	平尾文	専任
		卒業研究 I		OT 全教員	専任
		卒業研究 II		OT 全教員	専任
	作業療法管理学	作業療法倫理学	8	川畑なみ	専任
		作業療法管理学	8	高島千敬	専任
	作業療法評価学	作業療法評価学	15	高島千敬	専任
		身体機能評価学演習 I	15	高島千敬	専任
		身体機能評価学演習 II	15	高島千敬	専任
		発達過程評価学演習	15	平尾文	専任
		精神・認知機能評価学演習	15	川畑なみ・鎌下莉緒	専任
	作業療法治療学	身体機能作業療法学 I (中枢神 経障害)	15	岩本優士	専任
		身体機能作業療法学演習 I	15	岩本優士	専任
		身体機能作業療法学 II (内部障 害・運動器系)	8	高島千敬	専任
		身体機能作業療法学演習 II	15	高島千敬	専任
		精神機能作業療法学	15	川畑なみ・鎌下莉緒	専任
		精神機能作業療法学演習 I	15	川畑なみ・鎌下莉緒	専任
		精神機能作業療法学演習 II	15	川畑なみ・鎌下莉緒	専任
		日常生活援助学	15	川畑なみ・坂本将 徳・岩本優士	専任
		日常生活援助学演習	15	川畑なみ・坂本将 徳・岩本優士	専任
		発達過程作業療法学	15	平尾文	専任
		発達過程作業療法学演習 I	15	平尾文	専任
		発達過程作業療法学演習 II	15	平尾文	専任
		作業療法治療学総論 (理論)	15	宮崎洋幸	専任
		義肢学 (演習を含む)	15	渡邊哲也	専任
		装具学 (演習を含む)	15	渡邊哲也	専任
		高次脳機能作業療法学	15	宮崎洋幸・岩本優士	専任
高次脳機能作業療法学演習	15	宮崎洋幸・岩本優士	専任		
高齢期作業療法学	15	宮崎洋幸・渡邊哲也	専任		

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・兼 任)	
専門分野	作業療法治療学	高齢期作業療法学演習	15	宮崎洋幸・渡邊哲也	専任	
		作業療法特論	15	高島千敬・宮崎洋幸・平尾文・川畑なみ・渡邊哲也・坂本将徳・岩本優士・鎌下莉緒	専任	
	地域作業療法学	職業関連活動学	8	高島千敬	専任	
		生活関連機器論 (含生活環境学)	8	渡邊哲也	専任	
		地域作業療法学	15	佐藤佳子・坂本将徳	兼任・専任	
		地域作業療法学演習	15	佐藤佳子・坂本将徳	兼任・専任	
	臨床実習	臨床見学実習			平尾文・宮崎洋幸・川畑なみ・高島千敬・渡邊哲也・坂本将徳・岩本優士・鎌下莉緒	専任
		臨床技能演習			川畑なみ・宮崎洋幸・平尾文・高島千敬・渡邊哲也・坂本将徳・岩本優士・鎌下莉緒	専任
		基礎臨床実習 I			川畑なみ・宮崎洋幸・平尾文・高島千敬・渡邊哲也・坂本将徳・岩本優士・鎌下莉緒	専任
		基礎臨床実習 II			宮崎洋幸・平尾文・川畑なみ・高島千敬・渡邊哲也・坂本将徳・岩本優士・鎌下莉緒	専任
		地域臨床実習			宮崎洋幸・平尾文・川畑なみ・高島千敬・渡邊哲也・坂本将徳・岩本優士・鎌下莉緒	専任
		総合臨床実習			高島千敬・宮崎洋幸・平尾文・川畑なみ・渡邊哲也・坂本将徳・岩本優士・鎌下莉緒	専任
		—	音楽療法	8	栗野真湖	兼任
	—	動物介在療法	8	川嶋舟・高橋憲子	兼任	
	—	園芸療法	8	高松雅子	兼任	
	—	回想療法	8	渡邊哲也	専任	

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床見学実習 (臨床の見学を通じて、その施設での作業療法士の役割を学び、臨床での対象者とのかかわる体験より、学内の学習動機につなげる)	2年前期	作業療法概論	1年前期
		チーム医療論	1年後期
		基礎作業学・基礎作業学実習	1年前期
基礎臨床実習Ⅰ (対象者の全体像把握ための評価を選択し、問題点の抽出、目標設定の過程を学び、治療計画立案の基礎を学習する)	3年後期	作業療法評価学	1年後期
		身体機能評価学演習ⅠⅡ	2年前後
		精神・認知機能評価学演習	3年前期
		臨床技能演習	3年前期
基礎臨床実習Ⅱ (基礎臨床実習Ⅰで得た経験をもとに、治療計画立案を行うための情報収集・評価のプロセスから治療の実際を学習する)	3年後期	精神機能作業療法学・演習	2年3年
		身体機能作業療法学・演習	2年3年
		発達過程作業療法学・演習	2年3年
		高齢期作業療法学・演習	3年前期
		高次脳機能作業療法学・演習	3年前期
地域臨床実習 (地域リハビリテーションの臨床を見学する中で、作業療法士の役割と機能を考察し、症例への実際の対応について学習し報告する)	4年前期	生活関連機器論	2年後期
		職業関連活動学	2年後期
		地域作業療法学・演習	3年前期
総合臨床実習 (臨床実習指導者の指導の下、作業療法プロセス全般の実戦経験を積む。基礎臨床実習Ⅰ・Ⅱを包括・統合した実習を経験する。)	4年前期	日常生活援助学・演習	2年3年
		義肢学・装具学	3年前期
		生活支援計画論	3年前期
		作業療法倫理学	3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
○	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
○	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	点検評価実施委員会
委員名（委員長）	古澤 幸治
組織の開催頻度	原則として毎月1回開催
組織の取り組み内容	・全学を対象とする自己点検・評価の実施に関する事項
	・学部および事務局を対象とする自己点検・評価の実施に関する事項
	・学生による授業評価、教育環境改善のためのアンケートの実施に関する事項
	・点検・評価報告書の作成および自己点検運営委員会への報告に関する事項
	・自己点検運営委員会から出された改善の指摘・勧告に対する実施計画の策定および実行に関する事項
・ その他、全学の自己点検・評価を実施する上で必要とされる事項	
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://www.hcu.ac.jp/guide/disclosure/jikoten/ ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会、FD委員会
	委員構成等	（教務委員会）教務部長、教務委員会構成員 （FD委員会）FD委員会構成員
	改善の仕組みの実際	教務委員会においてシラバス掲載項目を策定し、記載例を提示している。シラバス掲載項目および記載例の策定にあたっては、FD委員会において授業評価アンケート結果を集計・分析し、その内容を踏まえて教務委員会と連携し検討している。 また、シラバスの記載内容の適正について、事務局による点検（記入漏れ、誤記、情報不足等の形式上のチェック）を行っている。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

認証評価委員会において、全学的な内部質保証方針である『内部質保証のための全学的方針及び手続』を策定している。同方針（①内部質保証の定義、②自己点検運営委員会と点検評価実施委員会の権限分担、③改善サイクルとエビデンス管理手順）に基づき、点検評価実施委員会および自己点検運営委員会を中心として運用を行い、継続的な改善に取り組んでいる。